

夕張レポート〈第43回〉

～百聞は一見に如かず・夕張派遣の1年を振り返って～

都では、夕張市からの要請を受けて、幹部職員等の派遣を実施しています。今回は、平成24年4月1日から平成25年3月31日まで夕張市に派遣され、主幹としての任務を終えられた、知事本局政策部 谷口将太さんの夕張体験記をお届けします。

■ 自己紹介



谷口 将太さん

(写真は2020年東京オリンピック・パラリンピック招致PRポスターを掲出した夕張市役所内にてPRを行っている様子)

間シンクタンクの経済予測や各種指標等を基に緻密かつ正確な税収見込の分析・策定に努めました。その後、1年間の夕張市派遣を経て、本年4月から知事本局政策部政策課に在籍しています。

私は平成17年に入都し、夕張市に派遣されるまでは主税局で法人二税の課税事務や税収見込の策定事務等に携わっていました。法人二税は都税収入に占める割合が高く、景気変動の影響を受けやすい税目ですが、私が法人二税の税収見込を担当した平成21年は、リーマンショックによる景気低迷や地方法人特別税の導入に伴い、約1兆円の大規模な税収減に陥った時期でした。そのため、都の行財政運営に支障を来さぬよう、民

■ 夕張市派遣の打診を受けて

打診を受けたときは、全く予期していなかったもので、大変驚きました。仕事のこと、暮らしのこと、正直不安ばかりが心に押し寄せて来ました。

しかし、東日本大震災の直後に被災地支援で宮城県南三陸町を訪れ、現場業務を行う中で、「現場のことは現場に行ってみなければ分からない」ということを、身をもって感じていました。

財政再建と地域再生に向けた夕張市の取組に直に接することは、自分自身にとって必ずや貴重な経験になるとの思い、そして何よりも自分の力が夕張再生に少しでも役立てばとの思いから、夕張市へ行くことを決意しました。

■ 夕張市での仕事

夕張市では、総務課に配属され、東京都との自治体間連携モデル事業の実施に向けての連絡調整や都から派遣されている理事の担任事項の補助、市長秘書業務の補佐等を担当しました。

<高校生夕張キャンプ>

昨年夏、教育庁との連携事業として初めて実施した高校生夕張キャンプに、事務局として携わりました。本事業は、夕張が世界に誇る夕張メロンや優れた運動施設を活用し、都立高校生の実践力や競技力の向上と未来の夕張応援隊の育成を図ることを目的としています。夕張市の産業振興や都立高校生の教育の観点からも高い効果があり、今年度も継続して実施する予定です。



高校生夕張キャンプで訪れた都立高校生が夕張市役所前で出迎えた市職員に挨拶

<2020年東京オリンピック・パラリンピック招致のPR協力>

本年1月より、連携事業の一環として、オールジャパンで目指す東京オリンピック・パラリンピック招致に、夕張市も全面的に協力する運びとなり、市内各所でのポスター・横断幕等の掲示、ピンバッジ等のPRグッズの配布、ゆうばり国際ファンタスティック映画祭等のイベントでのPR活動を企画・実施しました。夕張市では、高校生夕張キャンプでのスポーツ交流の実施のほか、NPO法人による旧学校校舎を活用した障害者スポーツの普及・啓発事業の開始も予定されています。日本でのオリンピック・パラリンピック開催は夕張市でのスポーツ振興にとっても大きなきっかけとなりうることであり、開催地が決定する9月まで、夕張から北海道、全国へ招致機運を盛り上げていきます。



夕張市内各地で2020年東京オリンピック・パラリンピック招致をPR（写真はゆうばり文化スポーツセンター）

<クラウドファンディング>

クラウドファンディングとは、不特定多数の人からインターネット経由で資金を集める行為で、群集(crowd)と資金調達(funding)を組み合わせた造語(以下、「CF」という)

です。東日本大震災を契機とした寄附文化の浸透やソーシャルメディアの隆盛と相まって、近年注目を集めています。

夕張市では、財政破綻に伴い、市民団体やイベントへの補助金が大幅に削減される中、これまで市民有志による自主的な活動が行われてきました。こうした活動を実施するための新たな資金調達的手段として、CF事業(夕張市民・団体等によるCFの活用及びCFを活用する市民・団体等に対する市の応援)の立ち上げに携わりました。

この他にも、夏と冬に実施される東京都職員タイムリー研修の実施内容の企画や各受入施設との調整、産業労働局との連携事業である都庁物産展や産業交流展の調整等に携わりました。

■ 夕張市派遣で得たもの

<全ては一からの挑戦>

自治体間の連携事業は、これまでに前例のない新たな取組であり、執行体制や仕事の進め方などの基盤が確立されていない中で、実現に向けてのプロセスを一から作り上げていかなければならないところに難しさがあります。加えて、夕張市は全国で唯一の財政再生団体であり、予算や人員の厳しい制約がある中で、いかにして効率的で効果的な事業を実施できるか、他の自治体よりもより高いハードルをクリアしなければなりません。

高校生夕張キャンプでは、財政破綻後にそれまで市が主催してきたイベント等を中止した背景もあり、様々な関係者の協力を得て実施する必要がありました。そのため、夕張市と東京都をはじめ、市内外の関係団体等による実行委員会形式で運営しました。また、予算の面においては、市による財政負担が難しいことから、都予算のほかは市の関係課等の協力をいただきながら、協賛金を募集して工面しました。

こうした取組を通じて、事業実施に当たっては様々な制約があったとしても、そこで思考停止してしまうのではなく、その状況を打開するために常に新たな発想を掘り起し具現化することこそが行政の真髄であることを強く認識しました。

また、その背後には、実施による効果、予測される障害と対応策等、緻密なストーリーが描かれていなければならないことも、現場での実践を通して改めて実感しました。

さらには、市長へのブリーフィングの機会を通じて、市長の方針に照らした施策展開のあり方を学べたことも、今後都庁人生を歩んでいく中で大変貴重な経験となったと感じています。

<互いの価値向上の実現に不可欠な自治体間の相互理解>

関係者が各所に散らばり、一堂に会する機会を確保できない中で、互いの認識のズレが生じることも多々あり、調整の難しさを日々痛感しました。

そのような中、高校生夕張キャンプにおいては、市役所職員や市民の方々のご理

解・ご協力をいただき、「東京から来る生徒達に少しでも多く夕張の良さを知ってもらいたい」との思いから、受入体制の整備やポスター掲出等、一丸となって取り組めたことは大きな成果であり、心から感謝しています。

東京オリンピック・パラリンピック招致の PR 協力では、市民の方々から「夕張でも東京のために協力できることをやっていきたい」という言葉をいただきました。自治体間の連携事業は、「支援」ではなく、「連携によるお互いの価値向上」の位置づけとして、着実に歩みを進めています。

一方的な押し付けによる連携ではなく、互いのできること・できないことを認識し、実施の意義や効果について共通理解を持つことがベースであることを忘れてはならないと強く思いました。

＜夕張市の再生にかける市民の方々の熱い想い＞

夕張市での業務を通じて見えてきたものは、財政破綻による暗い閉塞感ではなく、「夕張市から地域再生のモデルを全国に発信する」ことをスローガンに、鈴木市長をはじめ、夕張市の再生にかける市民の方々の強い熱意でした。私自身もこの1年を経て、気付けば、「日本の経済成長期を支え、そこで暮らした人々の営みが根付く夕張を守りたい」「夕張と同じように、自分の故郷も大切にしていきたい」という想いを強く持つようになっていました。

このことこそが首都公務員として120点満点の役割を果たすための第一歩ではないかと私なりに感じています。

夕張市派遣で得た経験を今後の都政に活かしていくとともに、東京と地方の双方から物事を考察する複眼的視点を持って、夕張をはじめとする日本全国の地域再生につながる種を探し続けていきたいと思えます。

■ 夕張市のこれから

夕張市は、財政破綻後の急激な職員減少に伴う行政執行体制の確保や今年度から始まる再生振替特例債 322 億円の元金償還(利子と合わせて年間約 26 億円を今後 14 年間で償還)等、多くの課題を抱えています。一方で、国、北海道、夕張市による市の課題把握や対応策の検討の場である三者協議の実現や、人口減少や少子高齢化が急速に進む中で持続可能な地域社会を構築するためのコンパクトシティの推進等、財政再建と地域再生に向けた取組を、スピード感をもって着実に進めています。

夕張の春はこれから。市内にはこれまでに2万本以上の桜が植樹されており、2030年までには市民団体等の活動の下、合計4万本の日本一の桜の名所となることを目指しています。財政再生計画が終了する頃には、辺り一面満開の夕張の桜を見ることができでしょう。

夕張の自然、空気、それから何より人の温かさ、炭鉱で栄えた時代に多くの地域から労働者を受け入れてきたホスピタリティの精神は、私たちに心の安らぎとともに「絆」という一文字の大切さを改めて思い起こさせてくれます。夕張派遣研修等で訪れた東

京都の職員の多くがリピーターとなって自主的に何度も夕張市に足を運んでいるのも、おそらくここにゆえんがあるのではないのでしょうか。

「百聞は一見に如かず」是非多くの方に夕張市を訪れていただければと思います。

最後に、私の1年間の夕張市派遣に当たり、お力添えをいただきました全ての皆様に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



派遣最終日。市長室にて鈴木市長(右)と



夕張派遣研修でお世話になった南部地区
ふれあいサロンのみなさん

【「東京⇄夕張自治体間連携モデル事業」のポータルサイト】

<http://www.chijihon.metro.tokyo.jp/yubarishien/index.html>